

センター試験 倫理、政治・経済 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：39問
<p>【概況】1996年を最後に出題のなくなった「倫理、政治・経済」が再び出題されることとなり、その内容と形式が注目されたが、「倫理」および「政治・経済」の問題からの流用設問で全体が構成されるという結果であった。</p> <p>【出題分野】「倫理」分野は19問、「政治・経済」分野は20問であった。また、政治分野が10問、経済分野が10問で、ほぼ均等に出題されたといえる。ただし、「倫理」分野と「政治・経済」分野に重なる出題も3題存在した。いずれにせよ、それぞれの分野から満遍なく出題された。</p> <p>【出題形式】近年の「倫理」および「政治・経済」の出題傾向と大きな違いはなかったため、それぞれの分野をきちんと勉強してきた受験生には、大きな戸惑いはなかったものと思われる。なお、1996年まで出題されていた「倫理、政治・経済」は知識重視問題が多く、とりわけ現在の「倫理」の出題傾向とは異なっていた。すべての問題が「倫理」および「政治・経済」と重複していたことから、過去問を用いた学習に際しては、「倫理」および「政治・経済」の過去問をそのまま活用できる。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	悪をテーマとしたリード文で源流思想を問う。	18点	ソクラテス・浄土信仰・古代のインド思想・諸子百家・イスラム教・日本の古代思想・内容一致問題の順に出題。いずれも基本的な知識があれば解くことが可能。イスラム教はクルアーンの十戒とモーセの十戒の資料問題であるが、内容は簡単であった。
第2問	機械論的自然観をテーマとしたリード文で近現代の思想を問う。	18点	臓器移植法・デカルト・カント・フッサール・ロック・循環型社会・内容一致問題の順に出題。フッサールを知らなかったとしても消去法で解答可能。ロックの資料問題もしっかり読めば確実に答えられる。
第3問	リード文なしの総合問題（青年期から2題、日本思想から2題、生命倫理から1題）。	14点	青年期の特徴・性格の分類・吉田松陰・福沢諭吉・生命倫理の順に出題。吉田松陰の問題で戸惑ったかもしれないが、消去法で解決可能。
第4問	政治・経済の現代的課題をテーマとしたリード文で全分野を総合的に問う。	14点	日本的経営・地方分権・ケインズの経済学説・社会保険制度・戦後の国際政治・国際連合の順に問う。政治・経済の全分野からの出題のため、頭の切り替えが大切となる。
第5問	ユーロ危機と財政赤字をテーマとした会話文を素材に、経済分野を総合的に問う。	18点	為替レートの計算・経済統合・国際収支表・バブル経済の実態・一般会計予算・日本の金融機関・課税の国際比較の順に出題。一般会計予算と課税の国際比較は資料問題であるが、後者は数値が似通っているため迷った受験生が多かったのではないだろうか。
第6問	自由をテーマとしたリード文で政治分野を総合的に問う。	18点	自由の概念・社会契約説・精神の自由をめぐる判例・権利の分類・マイノリティの権利・主要国の政治制度・日本の司法制度の順に出題。自由の概念については「政治・経済」の出題形式としては新しいが、出題の意図をつかめば容易に解ける。その他は標準レベルと言えるだろう。